

復興願い仏像と御守

東京福祉大 学生協力 あす気仙沼住民に



仏像を贈る小林さん(前列右から2人目)と太田さん(同3人目)と東京福祉大生

など協力し、支援の輪が広がったことに小林さんは喜ぶ。

介護のため帰省した気仙沼市で被災した伊勢崎市境上瀨名の太田初子さん(68)が、小林さんの前回の訪問を本紙で知り、気仙沼への訪問を提案した。訪れるのは太田さんの知人のいる松岩寺と面瀬中学校の仮設住宅。153戸の住民たちを小林さんと太田さんら5人

伊勢崎市波志江町で翔雲流仏像彫刻会を主宰する小林翔雲さん(51)と門下生らが23日、宮城県気仙沼市を訪れ、木彫りの仏像70体と「御守木札」300個を被災住民へ贈る。8月に続く第2弾で、今回は上州名物「煮ほうとう」100食の炊き出しも計画。東京福祉大の学生もメッセージカードを作成する

支援

東日本大震災関連

暮らし

が訪れる。

今回制作した仏像は前回の手のひらサイズより小さくかわいらしく工夫。「御守木札」は小林さんや門下生が一つ一つ丁寧に焼き印した。

太田さんは現在、東を行った。小林さんは「太田さんのおかげで支援の幅が広がった。みんなの思いを仮設住宅で苦労している人々に伝えたい」と意欲をみせる。